

おたがいサマサマ わやくちゃチャチャチャ 2025年1月14日放送分

ナレーター：おたがいサマサマ わやくちゃチャチャチャ

♪俺たちの明日／エレファントカシマシ

ナレーター：この番組は、グッドニュース情報発信塾の提供でお送りします。

のぶ：皆さんこんにちは。手話エンターテイメント発信団 oioi の“のぶ”です。

りょーじ：“りょーじ”です。先週から始めましたこちらの番組は、毎月月替わりで様々な背景や様々な価値観を持った出演者が自ら企画し、自らゲストまでブッキングして、勝手気ままにおしゃべりと好きな音楽をかけちゃおうというものです。

のぶ：それでは改めて今一度自己紹介をさせてください。僕は手話エンターテイメント発信団 oioi の“のぶ”と申します。

りょーじ：そして、同じく oioi の“りょーじ”です。

のぶ：よろしく願いいたします。先週はね、僕らがどうやったら喋れるようになるかという話をさせていただいたんですけども、よく考えたら僕たちの活動についての話あんまり言ってないですね。

りょーじ：全然言ってなかったですね。

のぶ：もうりょーじくん、簡単に言っちゃってくださいよ。

りょーじ：簡単に言いますと、僕たちは普段は、手話のパフォーマンスをやったり、ワークショップを通して、「手話っておもしろいね」「耳のきこえない人ってこんな人いるの、へえ」っていうような気づきだったり、手話だったり耳のきこえない人のことを身近に感じていただくためにいろんな活動をさせていただいて、北は北海道、南は沖縄まで、いろんな場所にお伺いして、いろんな活動をやってますよね。

のぶ：そうですね。ありがたいですね。この調子じゃこれから世界に飛び出していきたいところですね。

りょーじ：行きたいですね。

♪★、🔔、♪ (～♪)

のぶ：ここでディレクターさんから指示が出ましたよ。僕たち耳がきこえないんですけども、「こういう風にしてもらったら嬉しいことって何ですか？」という質問をいただきました。

りょーじ：なるほど、なるほど。その質問に・・・

2 人：アンサー！！

の ぶ：まずはね、僕たち耳のきこえない人がどんなことで困るかっていう話をしたほうがいいかな。

りよーじ：そうですね。改めて僕らの聴覚障害ってそもそも何かというか、きこえ方とかね、そういう話も。

の ぶ：じゃあまずは僕から。私のぶは、生まれた時から耳が全くきこえなくて、補聴器をつけることによって、何とか音はきこえるようにはなるんですが、きこえてきた音はぐにゃぐにゃぐにゃってなっていて、基本的にはきこえてても何を言っているか、その内容はわからないというきこえ方をすることが多いです。

りよーじ：なるほど、なるほど。僕自身もほぼほぼ同じで、僕は補聴器を取った状態で全くきこえてないわけではなくて、補聴器を付けたら、きこえるみなさん並みに音を拾う力はあるんです。ただ、のぶと同じく音は拾うけど何の音かとか、声がきこえるけど何を言っているのかわからないということが、よくあるんですよ。

の ぶ：そんな僕らが、普段どうやってコミュニケーションをとっているかっていったら、基本的には相手の口の動きを読み取るということが多いと思うんですけど、残念ながら世の中で相手のしゃべってることの動きが見えづらいつて思うこともいっぱいありますよね。

りよーじ：ある、ある。

の ぶ：例えばマスクだとか、口元を隠しながら喋るとか。あとはね、相手が喋る時に、下を向きながら喋るっていうのも結構困りますし、喋っている間に横を向かれるのも困りますし、喋っている間に、間を誰かが通っていただけでも困ります。

りよーじ：困りますね。あと、下を向くのどちよっとかぶるんですけど、スマホを見ながら喋られるとかね。

の ぶ：はい、はい。ながらトークとかね。割ときこえる方々の中には、自分の口元を見られているという感覚があまりないんじゃないかなって思うことが結構多いですね。

りよーじ：それはでも仕方ないですよ。声のコミュニケーションっていうのを普段されていると思うので、やっぱり顔を見ずに、コミュニケーションが通じてしまっている部分っていうのがやっぱりいっぱいあるかなと思って。

の ぶ：わかる、わかる。ノールックトークって困るよね。僕らの時は。誰の方に向かって喋っているのかもわからないし、僕らは基本的にこっち向いて喋ってもらわないと、誰に何をしゃべっているかわからないというのがあるからね。

♪★、🔔、♪ (～♪)

りょーじ：なるほど。今ちょっとカンペが出ましたね。どこで一番困るのか。場面ですか？
シチュエーション？

のぶ：シチュエーションでいったら、僕はやっぱり病院です。なんでかっていうと、
病院ってマスクつけてる人すっごい多い。

りょーじ：多いですね。

のぶ：受付もマスクしてはりますし、お医者さんもマスクしてはるし、なんか受付で
待ってるだけでもなかなか精神的にはプレッシャー。

りょーじなんかはそうですね。

りょーじ：そうです。僕は毎月、病院の方に行ってるんですけど、何がしんどいかって普通
元気な状態だったら全然いいんですけど、病院に行く時ってちょっとしんどい
なっている状態で行くと思うんですよね。その身体的にしんどいという状態で
来てるのに、精神的にしんどいものが来ると、めちゃくちゃ大変っていうね。

のぶ：わかる、わかる。基本的に受付って声で呼ばれることが多いから、自分がいつ
どのタイミングで呼ばれているかっていうのがわからないので、なんとなく
入った時の状況を見ながら、多分自分何番目かなとか、この人の後に入ったから
多分この人の次に呼ばれるんちゃうかなとか思いながら、いろんなことを考え
ながら周りの様子を見てますもんね。

りょーじ：あれが一番困るのが、次僕の番やなどと思ってたら、後に来た人が先になんか予約
を取ってて、その人が先に呼ばれていくみたい。そこから順番がごっちゃに
なって、ずっと受付のところを見とかないといけないっていう。周りを見渡すと、
スマホをいじりながらとか、読書しながらとかで待ってはる方がいらっしやる
んですけど、僕らはそれができないんですよ。

のぶ：そう、そう。リラックスしながら待ってみたいよね。だから、やっぱり思うんだ
けど、僕らは基本的に相手の口を読みながら理解していることが多いから、
マスクに関しては、感染症とかの問題もあって難しいと思うんだけど、
基本的には口が見えるような形で喋ってもらえたら嬉しいなと思うのと、基本
的にはこっち見ながら喋ってほしいなとは思うよね。

りょーじ：それだけでも全然いいですね。

のぶ：なんかコンビニとか行ったら、だいたいこっち見てくれない。

りょーじ：全然見てくれない。

のぶ：見てくれないし、下向きながら言われて「なんて？」って思う。

りょーじ：「温めますか？」「お箸ありますか？」「袋ありますか？」、全部の確認が、
何て言ってるかがわからなくて、今はどれを聞かれてるんやろ？みたいな。

のぶ：その時って、「とりあえず結構です」って言うよね。

りょーじ：ある、ある。

のぶ：もう何言われてるかわからないから、ほんまはね、お箸が欲しいと思うときあるんやけど何を言ってるかわからんから、とりあえず「結構です」って言っとけば、平和で終わる。

りょーじ：その場は乗り越えられる。

のぶ：ほんとはよくないよね。本当は、何を言っているかっていうのを理解したいし、それがわかりやすいようになってくれたら、僕らも、本当はもっと喋りたいよね。

りょーじ：喋りたい。

のぶ：もうどうでもいいこと喋りたいよね。

りょーじ：喋りたい。

のぶ：「今日の天気よかったですよね」とか、「今日寒いですね」とかいうような、そういう、どうでもいいとは言わないけども、世間話ってもっとやりたいなと思うけど、なかなか口元が見えないと、それをするのにもためらいを感じてしまうかな。

りょーじ：雑談がしにくい。それはありますね。

アラーム：時間です。時間です。

のぶ：あっという間に時間迫ってまいりましたね。2回目の感想はどうですか？

りょーじ：まだまだ話し足りないっていうのが正直なところですね。

のぶ：そうですね。喋りだしたらあっという間ですよ。

りょーじ：ですね。困ってることとかね、他にもいろいろあるので、興味を持っていただけたら、いろいろ僕たちのお話を聞いてみたりとかしていただけると嬉しいなというふうに思います。

のぶ：そうですね。聴覚障害者の困りごとってこれだけじゃないですよ。他にもまだまだいっぱいあるから、また聞いてもらえたら嬉しいなと思いますね。

りょーじ：ということで、あっという間だったんですけども、この番組では毎回ね、我々のリクエスト曲をかけてくれるそうなんですけど、今日は？

のぶ：私、のぶが選びました。

りょーじ：この曲を選んだ理由は？

のぶ：僕は生まれた時から耳がきこえないんですが、実は音楽は結構好きでして、音楽を聞いてみたい、音楽を楽しんでみたいと思った時に、わざわざ自分でお金を払って買ってみたいと思ったのが、こちらの曲なんです。

りょーじ：そうなんです。

のぶ：そうなんです。

りょーじ：じゃあタイトルコールお願いします。

の ぶ : はい。僕の大好きなスピッツで、「空も飛べるはず」です。

りょーじ : それではこの曲をおかけして、今週は終了です。来週も同じ時間にお耳にかかり
ましょう。

2 人 : さようなら～！！

♪空も飛べるはず／スピッツ